

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	済生会なでしこ園		
○保護者評価実施期間	2024年9月20日		2024年9月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2024年10月10日		2024年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	2024年11月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に合わせた支援体制を整備できる環境を持つこと。また、全職員で週・月・年単位で環境整備について検討する仕組みを持っていること。	<ul style="list-style-type: none"> こどもの特性や強みに合わせたクラス編成を行っている 園舎はこどもの生活や支援者の動線にあった構造を持つが、常に柔軟な環境の再考察を行っている。 毎日の清掃と併せ、月1回のクリーンデイ、年2回の大掃除を行い、こども達が気持ちよく過ごせる環境を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい特性に合わせた物理的構造化などをさらに工夫し、こども達の安心の場としていく。 遊具や個別支援に使う道具や教材が多い。収納の工夫などを行ってきたい。
2	研修体制が充実している (外部施設見学・外部研修・内部研修)	<ul style="list-style-type: none"> 本園の基盤となる支援に関しては全職員で年2回の研修を受講するようにしている。 その他、職員の自己学習の後(有する資格に合わせたもの)職員に内部研修を行うことで、他機関などでの研修や保護者への支援に活かせる説明力を獲得できるように意識して取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアに応じた研修の機会を提供できるよう、年間の計画をより丁寧に組んでいきたい。 児童発達支援センターとして、受講する研修のみでなく、他機関での研修において、それぞれの職員が運営や講師を担えるような力を養成していきたい。
3	丁寧な発達支援と家族支援	<p>こども達一人ひとり、そしてご家族の権利を尊重して関わる姿勢を持つことができるよう、支援の基盤となる理念や支援方針を大切にしている。(理念などの勉強会や困難事例において理念を振り返るなど)</p> <p>また、クラス職員、担当職員、児童発達支援管理責任者、各専門職がチームで対応できるような体制を整備している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 通園が難しくなるこどもや家族に対する、家庭訪問や家庭での支援に向けて、家庭訪問などの回数などを再検討していききたい。 家族支援プログラムにおいては、その年の通園児や家族に合わせた形で柔軟に開催していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務改善	こどもそれぞれの特性に合わせた支援を柔軟に行うため、支援者それぞれの業務の標準化がしにくい。	支援の見える化をできるだけ行い、各支援者が共通して利用できるツール等は積極的に活用していく。 また、年間行事をできるだけ年度初めに細部まで決定し、準備を少しずつ行っていくようにしていく必要がある。
2	各種アセスメントの整理	フォーマルアセスメントと、本園独自のアセスメントがあるが、使用するタイミングなどがわかりづらく、その時々合わせた使用と活用が難しい。	場面に合わせたアセスメントの活用を進めるために、一度整理し直す。
3	インクルージョンの推進	こども達が同年齢のこども達との遊びや様々な活動の経験ができる場面が少ない。隣接する同法人のこども園において、年長児のみが年度後半に遊びを共有しているものの、地域の保育所等への移行や併行通園の推進は難しい。(こどもの特性もあるが、地域の体制に合わせた仕組みづくりが進んでいない)	地域住民とのふれあいの場を積極的に作っている。これを今後も継続し、インクルーシブ社会の構築に努めていく。また、隣接する同法人のこども園と自然な交流を進めるよう、インクルーシブ保育推進チームを確立していく。